■佐原(北野)鞠塙

本草家，文人。平民ながら，才覚で一流文人と親交，向島百花園を遺した。

さはらきくう

・・・・・・・・1762＝

江戸での出版物数がようやく上方を上回った頃，陸奥の仙台で，農家の子に生まれる。本姓は佐原，名は秋芳。幼名は平八。鞠塙とも表記される。

御蔭参流行・1771＝9歳：

田沼意次老中1772＝10歳：

・・・・・・・・1780＝18歳：

蘭学階梯・・・1783＝21歳：

この頃，江戸に出て，中村座の芝居小屋に奉公。茶屋で貴顕やお大尽相手の常間のような仕事をして，金を貯えるとともに，一流の文化への造詣も深め，

田沼意次失脚1786＝24歳：

初の横綱・・・1789＝27歳：

ワズマン来日・1792＝30歳：

この頃，_日本橋住吉町に骨董店を開き，北野屋平兵衛(北平)と称する。

松平定信引退1793＝31歳：

古事記伝・・・1798＝36歳：

この間，_酒井抱一や加藤千蔭，村田春海，太田南畝，亀田鵬斎，大窪詩仏等多くの一流文人から愛顧を受け，川上白，千柳菊旦の紹介で諸侯旗本の邸にも出入して，利益を上げる。

いげノ来航・1804＝42歳：

骨董会で不正の嫌疑がかけられ，無罪放免となったが，店を続けがなくなったため，隠棲し出家。***隅田川畔の寺島村(現在の墨田区東向島)の多賀屋敷跡を購入し，梅園を開いて経営。開業の際には，作庭をも趣味とする彼らと共にウメ等の木や展示のための草花を採集。抱一設計による数寄屋を建て(後の御成座敷，東京大空襲で焼失)，門の両脇には，南畝の筆による「春夏秋冬花不断。東西南北客争来」の聯(板飾り)を掛け，北宋の詩人に倣って梅園を開いたという「梅屋花品」，文人らの詩を集めた「盛音集」を刊行。**

青洲麻醉手術1805＝43歳：

「秋芳園展観目録」刊行(4年前説)。小松曳を催す。'山師来て なにやら植えし 隅田川'白猿。

いげノ船狼藉・1807＝45歳：

間宮海峡発見1808＝46歳：

「群芳曆」刊行。

浮世風呂・・・1809＝47歳：

_梅干しが名物になって行くと，文人仲間らと，墨堤に桜を，園には古典に名高い草木を植え始め，

隅田川都鳥はカモメの仲間とする「都鳥考」刊行。式亭三馬の「浮世風呂」に百花園と紹介され，

コロボシ拿捕 1811＝49歳：

「隅田川の都鳥はカモメの仲間とする「都鳥考」刊行。式亭三馬の「浮世風呂」に百花園と紹介され，

高田屋拿捕 1812＝50歳：

「秋野七草考」刊行。_この頃，盛んになった本草学の徒の研究だけでなく，江戸の人々の遊興地になって行き，南畝のアイデアで，遊覧客が茶代として小銭を入れる竹筒も設置，庭園整備費も稼げるようになる。

黒住教・・・1814＝52歳：

抱一書「千樹庵益賀句碑」，鵬斎による「墨陀梅莊記碑」。蘆雪や芭蕉の句碑も。_「春野七草考」を刊行。

・・・・・・・・1815＝53歳：

句集「はなふくろ」刊行。_江戸を中心に房総から尾張地方に至る各地の名所・旧跡・風俗・伝説・風景等を詳細に記した「遊歴雑記」三篇上巻にも百花園と紹介される。

伊能測量終・1816＝54歳：

尾形光琳に私淑し江戸琳派の祖になる抱一の命により，荒れたままだった光琳の墓碑再建ため上洛。光琳の遺族小西家からお礼に預かった光琳下絵380枚を抱一に届けて，その研究にも貢献するとともに，小西家から「光悦より空中より乾山伝来の陶器製法」一冊を譲られ，

水野忠成老中1818＝56歳：

この頃，本郷の阿部備後守の作庭を行う。

群書類従完結1819＝57歳：

_園内に窯をつくり，京から連れて来た陶工吉向治兵衛をして，隅田川焼きを始め，開窯記念に都鳥の香合を配り，小冊子「すみだ川花やしき」をつけて，江戸に初めて乾山陶器を紹介

伊能図完成・1821＝59歳：

書家敬義による「山上憶良 秋野七草歌碑」。_尾張大納言徳川茂徳が御成り。

英船浦賀来航1822＝60歳：

大窪詩仏による「画竹碑」，

いげノ木鳴滝塾1824＝62歳：

長命寺の桜もちが評判になる。

異国船打払令1825＝63歳：

「俳諧隅田川集」刊行。

日本外史・・・1827＝65歳：

「宮沢雲山先生看梅詩碑」。_「江戸名所花暦」巻三に紹介される。

いげノ木事件・1828＝66歳：

春秋花庵菊塙撰・花屋敷版の奥付のある「墨水遊覧誌」刊行。

いげノ木追放・1829＝67歳：

江戸大火。***十一代將軍家斉御成り。**

富嶽三十六景1831＝69歳：

没した。辞世'隅田川梅のもとにてわれ死なば春吹く風のこやしともなれ'。

百花園は，長く佐原家の所有だったが大正四年(一九一五年)に日本石油創業者の小倉常吉の手に渡り，常吉の死後，昭和十三年(三八年)に未亡人によって東京市に寄付された。1945年の東京大空襲によって壊滅したが，関係者の尽力によって元の姿に復旧された。